

WCS用稲を中心とした飼養体系と耕畜連携（（株）神戸渚上牧場：神戸市西区）

WCS用稲を活用した飼養体系により地域の耕種農家と連携した飼料生産と資源循環型農業に取り組む。また輸入割合が高い濃厚飼料の給餌割合を減らし効率的な飼養設計と生産性向上を図る。

1. 経営概要

- ・事業者名：（株）神戸渚上牧場 乳用牛約200頭（育成牛等約80頭含む）
- ・住所：兵庫県神戸市西区
- ・飼料生産：WCS用稲、ソルゴー、イタリアンライグラス、スーダン
- ・耕種面積：WCS用稲15ha（うち、作業受委託12.5ha）
- ・契約農家：10件（営農法人等含む）



2. 取組概要

1. 地域の耕種農家との連携によりWCS用稲の生産体系を構築。田植えや栽培管理は耕種農家、収穫・ラッピング・運搬は自社が担当（自社所有機械を活用）し、作業の役割分担を図る。
2. 自社の牛糞堆肥を地域の農地に還元する資源循環型農業に取り組み、畜産農家側が散布作業を請け負うことで、双方に有益となる効率的な作業体系を実現。
3. 牛の健康を維持し乳量や乳質の安定化とともに生産性の向上を図るための飼料給与設計や牛舎環境の改善を含めた飼養管理技術の向上に取り組む。



【収穫風景】



【WCSラッピング】

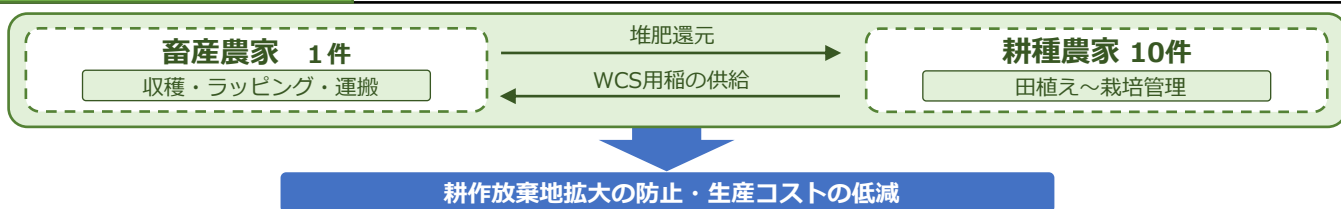


【給餌風景】



【堆肥散布】

3. 生産体系



4. 実績と効果

1. WCS用稲作付けによる耕作放棄地拡大の防止や、収穫作業等を受託することにより耕種農家の生産コストの低減とともに労力軽減に貢献。
2. 畜産堆肥を地域の有機資源として有効活用し、地力の増進や環境に配慮した持続性の高い地域農業の実現に貢献。
3. 粗飼料を中心とした飼養体系により、耕畜連携分を加えた自社による可消化養分総量（TDN）自給率は5割を達成。飼料価格高騰による影響を最小限に抑えている。

5. 今後の目標

1. 濃厚飼料（デントコーン）について、自社生産と作業機械の導入を進めるとともに、令和6年産は耕種農家と連携した7ha規模の生産を目指す。
2. 飼料の自産自消による生産性向上を追求し、飼養頭数の増加など経営規模の拡大を目指す。
3. 農地の集積化によりさらなる作業効率の向上を目指し、地域農業の担い手として貢献する。